

# 領土問題 新看板で訴え

網走JC

## 桂陽高・加藤さんが標語

網走青年会議所（JC）は、網走市藻琴の国道244号沿いに設置している北方領土返還要求の啓発看板を新調した。市内の高校生に考えてもらった標語「いつの日か 千島桜を見に行こう」も大きく書き、道行くドライバーさんに領土問題の解決を訴えている。

看板は1978年に設置。91年に交換して2代目となつたが、約30年が経過

して傷みが進んだことから、同JC創立70周年記念事業として新しいものに交

3代目看板は、縦1・8m、横4m、アルミ製。图标柄は、根室市の納沙布岬にある北方領土返還祈念シンボル像「四島のかけ橋」。2代目と同じだが、絵からカラー写真に変えた。標語を考えたのは、網走桂陽高2年の加藤春菜さん（17）。同JCが市内の網走南ヶ丘と網走桂陽の両高校の生徒に呼びかけてコンクールを行い、61人の64作品から最優秀賞に選ばれた。

28日には、加藤さんも現地に招いて、新看板が報道陣に披露された。加藤さんは、北方領土問題をインターネットで調べて、北方4島に自生するチシマザクラを知り、「標語に入れたら、いい感じになると思った」と語った。「みんなに（領土問題を）知つてもらえたらしいな。私も（北方4島に）チシマザクラを見に行きたい」と笑顔を見せた。

同JCは70年から地元の「あばしりオホーツク流水

換した。

まつり」に合わせて北方4島返還を求める署名活動を行ななど、看板以外にも領土返還要求運動を展開している。長井寿公理事長（40）は「これからも領土返還実現に向け、運動を続けていきたい」と話していた。